

# 本研究の趣旨及び研究概要

## 1. 言語機能障害教育研究室における研究の変遷と本研究設定の背景

### 1) 研究室の研究の変遷

言語機能障害教育研究室では、昭和48年度から「構音障害」「吃音」「言語発達遅滞」の指導法に関する研究を行ってきた。昭和59年度からは「構音障害」「吃音」「言語発達遅滞」の評価と指導に視点を当て研究をすすめた。この成果は、「幼児の構音発達とその予測」や「コミュニケーションチェックリスト」として著し、言語障害児に対する指導や実践に貢献してきた。

平成3年度からは「話すことばに障害をもつ子どもの教育的係わり合い」「コミュニケーションに障害をもつ子どもの発達と教育的援助」というテーマで、話すことばに障害のある子どもの指導を、話し方の技術の習得という指導の在り方から、子どもの内面とかかわり手の対応という面で指導内容を追求していく立場に視点を移して研究をすすめた。特に吃音児を取り巻く教育的環境や言語発達遅滞児に対する遊びを用いた評価について、事例を通して明らかにしてきた。

近年では、通級の制度化を受け「通級による指導の場における教師の役割」(平成6年度から9年度)というテーマのもとに通級指導教室において教師が果たしている役割を明らかにした。この研究成果では、子どもの指導はもちろんあるが、それ以外に子どもを取り巻く環境を整えること、大人同士の連携をはかることが通級指導教室の教師の役割として重要であることが明らかになった。

また、特殊教育の改善・充実に関する報告書の中で「早期からの教育相談の充実」が通級指導教室においても機能するように望まれていることをうけて「早期からの教育におけることばの教室の役割」(平成10年度から12年度)というテーマで研究を進めた。この研究からは、ことばの教室が子どもの指導のためだけでなく、保護者にとっても交流や安らぎの場となっていること、保護者はことばの教室担当者に専門的な知識や情報の提供を求めていること、ことばの教室で早期からの教育として幼児に対応する場合は、地域の療育システムや関係機関との連携を取り役割分担していくこと、様々な状況にある保護者に対して担当者は個別に対応する力量をつけていくこと、地域の幼稚園・保育所は専門家の助言を求めていること等が明らかになった。

### 2) 研究課題設定の背景

「特殊教育の改善・充実に関する調査協力者会議」(第一次)(平成9年)の報告では、通級指導教室に対して地域における早期からの教育相談を担当する役割を期待している。これは通級指導教室の多くが小・中学校に設置されており、地域に密接な機関となりうるという期待が込められているものと思われる。

また、平成15年3月に報告された「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」の「質の高い教育的対応を支える人材」の中では、「家庭において、教育はもちろん生活全般で障害のある子どもに幅広くかかわる保護者は、重要な支援者の一人である。(中略) 保護者に対して相談や情報提供を通して適切な支援を行うとともに、一般講座やセミナー等の開催を通じて保護者の理

解、啓発の促進を図っていくこと（略）」というように、保護者が子どもの支援者となる役割を明示すると同時に保護者への支援の必要性を述べている。

「ことばの教室」（言語障害学級、通級指導教室）では多くの教室が幼児の対応をしていることはすでに明らかになっており、このような状況と上記の報告を踏まえ、ことばの教室における早期教育相談と保護者支援の在り方について明らかにするため本研究課題を設定した。

## 2. 研究の目的

上述したように当研究室では、平成10年度から3年間にわたり「早期からの教育におけることばの教室の役割」というテーマで研究を進めてきた。この研究の成果として、「ことばの教室」（言語障害学級、通級指導教室）では多くの教室が幼児の対応をしていること、保護者はことばの教室に子どもの障害だけにとらわれない相談の場を求めていること等が明らかになった。

早期教育相談においては、対象とする子どもは乳幼児期にあり、子どもへの直接的な支援ということだけではなく保護者を支えるという視点が大切になる。多くの「ことばの教室」が幼児の対応を行っているにもかかわらず、担当する教員は多くの場合、小学校教諭であることが明らかになっている。「ことばの教室」における早期からの教育相談は学童期のそれとは異なる課題がある。例えば、就学に関する問題であったり、我が子の障害に関する保護者の受けとめや親子関係のあり方に示唆を与えたりすること等である。

そこで本研究では、早期教育相談における事例を通して、保護者との対応について検討・分析し、ことばの教室における早期教育相談と保護者支援の在り方を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の概要

上述したように、本研究は、ことばの教室における早期教育相談と保護者支援の在り方について明らかにすることが目的である。本研究を進めていく上では、子どもが育つ過程においてかかわりうる相談機関とその流れについて概観し、その中にあることばの教室の位置づけを確認する。図1は、子どもが誕生してから就学に至るまでにかかわる機関の道筋を示した。地域によって特色はあるが、乳幼児健診で要観察となった子どもは、子育てサークルやフォローアップ教室、あるいは医療機関や療育機関等を紹介される。これらの機関を経て、保育所や幼稚園に就園する子ども、療育機関に通う子ども、療育機関に通いつつ幼稚園や保育所に通う子どもなど様々な機関と関わりつつ就学を迎える。このように子どもが成長していく過程で、療育機関が設置されていない地域では、「ことばの教室」が軽度発達障害の幼児を対象とした療育機関の役割を果たしている。

早期教育相談を考えていく上では、地域の状況を無視して考えていくことは出来ない。そこで本研究では、都市部と地方に在職している研究協力者を委嘱した。図1中、\*印がついている機関に所属している者が本研究に携わった。都市部で療育機関に所属している者、都市部あるいは地方で言語障害を対象としている通級指導教室や特殊学級の教諭、幼稚園の教諭等である。これらの研究協力者には、地域の早期療育システムを背景としながら、事例の提供を依頼した。一方、所内研究分担者は、事例の検討をするとともに、保護者支援に関する調査研究を行い本研究課題にアプローチした。

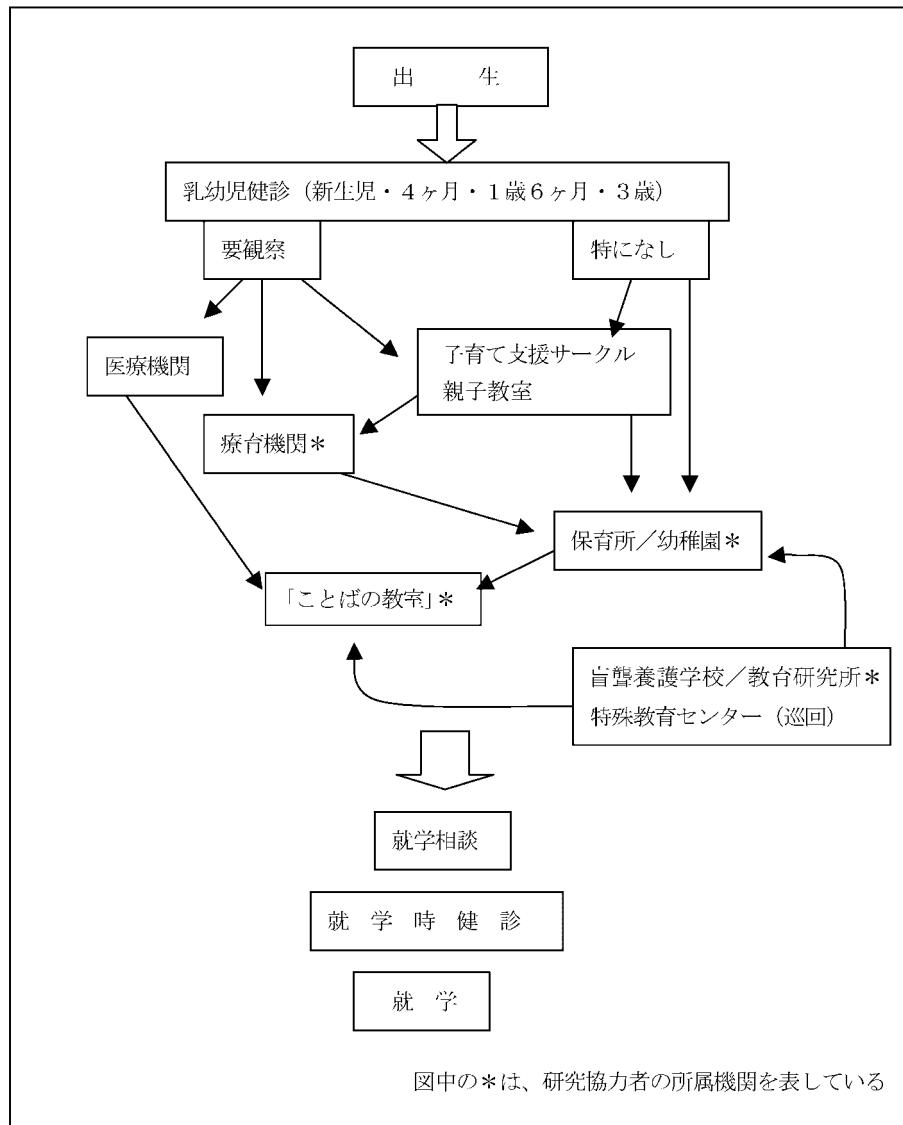


図1 研究に関係する相談機関と子どもの育ち

**4. 研究期間** 平成13年度～平成15年度

## 5. 研究の経過

＜平成13年度＞

- 1) 6月に研究協議会を開催し、研究協力者に本研究の概要を説明し、早期からの教育相談を行っている事例の提供を依頼した。
- 2) 7月に通級指導教室の担当者に対して保護者とのかかわりに関するアンケート調査を実施した。
- 3) 9月に通級指導教室に通っている子どもの保護者を対象としたアンケートを実施し、郵送にて回収した。
- 4) 2月に保護者を対象としたアンケートの中間のまとめを作成し、協力いただいた学校に中間

報告をした。

- 5) 3月に研究打ち合わせ会を研究協力者所属機関で実施し、研究協力者が担当している幼児の事例について協議し、担当者を対象に実施したアンケート調査の結果を報告し協議した。

#### ＜平成14年度＞

- 1) 7月に研究協議会を開催し、研究協力者が実施している早期からの教育相談事例を検討した。
- 2) 10月に研究協力者が行っている幼児の事例の経過について郵便での情報交換を行った。
- 3) 2月に研究協力者所属機関で研究協議会を開催し、地域の情報を得るとともに子どもの育ちと関係機関に関する意見交換を行った。
- 4) 平成13年度に実施した担当者に対するアンケート結果と保護者に対するアンケート結果を比較検討した。

#### ＜平成15年度＞

- 1) 6月に研究協力者所属機関で研究協議会を開催し、地域の情報を得るとともに担当者に対するアンケート結果と保護者に対するアンケート結果を比較し協議した。
- 2) 9月に担当者に対するアンケート結果、保護者に対するアンケート結果、早期からの療育システムの構築、保護者支援等について考察し、日本特殊教育学会に発表した。
- 3) 研究の最終年度にあたり、報告書（本報告書）を作成し、関係機関に配付する予定である。

## 6. 本研究に関して報告した文献（本報告書掲載分をのぞく）

- ・久保山茂樹・小林倫代・宍戸和成（2002）：全国調査からみた難聴・言語障害教育の現状(3)  
－幼児への対応の実態－. 日本特殊教育学会第40回大会発表論文集.
- ・久保山茂樹・小林倫代・佐藤雅次（2003）：「ことばの教室」における保護者とのかかわり(1)  
－全国調査から見たかかわりの実態－. 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集.
- ・佐藤雅次・小林倫代・久保山茂樹（2003）：「ことばの教室」における保護者とのかかわり(2)  
－担当者に対するアンケート調査から－. 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集.
- ・小林倫代・久保山茂樹・佐藤雅次（2003）：「ことばの教室」における保護者とのかかわり(3)  
－保護者に対するアンケート結果から－. 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集.
- ・八木玲子他（2003）：町ぐるみの支援体制作り－ことばの教室からの発信－. 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集.
- ・清水英子他（2003）：高機能自閉症児の親支援(2)－母親の障害認識の変容と療育支援－. 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集.
- ・小林倫代・久保山茂樹・佐藤雅次（2004）：「ことばの教室」担当者の言動と保護者の受けとめ.  
独立行政法人国立特殊教育総合研究所研究紀要第31巻. (印刷中)

(文責 小林倫代)